

第6回富良野市総合戦略有識者会議 議事録

■開催日時 平成28年8月26日(金) 午後2時10分～午後3時45分

■開催場所 富良野市役所 大会議室

■出席者 <委員> 能登会長、鈴木委員、浅利委員、南條委員、原田委員
飯沼委員、藤田委員

(計7名)

※欠席委員 荒木委員、菊地委員、加納委員、松村委員、鎌田委員
田村委員、中里委員、太田委員、小川委員、西本委員

(計10名)

<事務局> 若杉総務部長、鎌田保健福祉部長、吉田建設水道部長
遠藤教育部長、川上商工観光課長、柿本財政課長
西野企画振興課長、入交企画振興係長

1. 開会(午後2時10分)

2. 市長あいさつ

- ・昨年度、委員皆様の貴重な意見により、総合戦略を策定してきた。
- ・今回は、実施事業の検証、新たに取組んでいる事業、保留となっている事業の検討状況を説明しますので、活発なご意見をお願いします。

3. 新委員の紹介

※以降は、設置条例第5条に基づき、能登会長が進行。

4. 議題

(1) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)と平成27年度総合戦略実施事業について

事務局より資料1及び資料2に基づき説明。

【委員】

- ・中小企業振興事業において、新規出店は増えているが、逆に事業者が閉店している要因も探る必要がある。

【会長】

- ・富良野商工会議所の会員も増えている状況にあり、出店から閉店を差し引いてもプラスとなっている。

【委員】

- ・農業、中小企業、観光と各施策にタイムリーな支援を行い結果が出ている。
- ・宿泊延数の目標値700,000泊に対し、59,614泊増えているが、前年対比でどの位増えているのか。
- ・中国宿泊延数の目標値5,616人に対し、実績値が33,877人と6倍になっているが、目標値は何が根拠となっているのか。

【商工観光課長】

- ・宿泊延数の前年度 705,062 泊、今年度 759,614 泊で 54,552 泊が増えている。
- ・中国宿泊延数の目標値根拠については、手元に資料がないため答えられないが、外国人観光客全体が好調な状況にある。

【委員】

- ・外国人観光客誘致対策事業において、中国語・韓国語スタッフを雇用しているが、活動そのものが市民にも見える状況でなければいけない。
- ・地域に新たに入ってきた事業所が、どこから来たのかなどの情報を地域にも知らせしてほしい。ゴミや駐車場、除雪などの問題もあり、地域では対応に苦慮している。

【商工観光課長】

- ・中国語・韓国語スタッフは観光業務以外、市民に対しては、社会教育における語学や料理などの講習、小学校の外国語活動での語学や文化に関する授業などを行っている。
- ・地域に新たに入ってきた事業所については、富良野商工会議所などからの情報により把握しているが、地域との連携はこれから進めていきたい。

【会長】

- ・中国語・韓国語スタッフの活用については、教育委員会と連携しながら進めていきたい。
- ・地域における出店・閉店の状況は、富良野商工会議所と市が連携を図りながら、地域に情報を伝えられる状況を作っていく。

【委員】

- ・ふらの観光協会としては、補助金などを増額してもらっている状況にあり、観光客に満足してもらえる対応をしていきたい。また、厳しい経営状況にあるため、事務所の統合、人員の削減、会費の増額なども行っている。
- ・富良野の観光の目玉を明確にしていきたい。

【会長】

- ・今後も実施事業の検証を行いながら、さらに努力をしていかななくてはならない。
- ・外国人観光客の詳細状況を把握していく必要がある。
- ・ふらの観光協会、富良野美瑛広域観光促進協議会などが、それぞれの目的・目標を定めながら、平成 29 年度のブランド観光圏認定に向けて進めていかななくてはならない。

(2) 平成 28 年度から新たに取組んでいる総合戦略事業と保留となった総合戦略事業の検討状況について

事務局より資料 3 及び資料 4 に基づき説明。

【会長】

- ・実施状況について、各部長より追加説明。

【保健福祉部長】

- ・特定不妊治療費助成については、5 組 7 回の助成を行い、1 組が妊娠。

- ・おむつ券助成及びおむつ用ごみ袋給付については、現在 177 名に交付。
- ・乳幼児医療給付については、8月に所得要件もはずし、すべての就学前世帯が対象となった。
- ・第3子以降出産祝金については、現在5名に交付。
- ・子育て支援環境整備については、事業所に対し説明をしているが、現在のところ整備実績はなし。
- ・出産祝品給付については、アンケート調査を実施したが、回答にバラツキがある。内部では出生届で工夫できないか検討中。
- ・子育て家庭を支える地域コミュニティ活動については、ファミリーサポートセンター事業や子育て支援センター事業と連携を図りながら、場所や機会などを検討していきたい。

【教育部長】

- ・第3子以降就学助成については、対象 22 名。
- ・図書館授乳施設は整備済みであり、7ヶ月健診の際のブックスタート事業などにより、今後の活用をPRしていきたい。
- ・森林学習プログラムについては、今年度は樹海小、山部小、山部中、富良野小が試行により実施。ガイドも 13 名が研修を受けている。
- ・ふらのまちづくり未来ラボについては、暮らしステーションに委託し、毎回 30 名程度の市民が参加している。

【会長】

- ・出会い総合サポートについては、市が積極的に窓口となって取り組み、さらに出会い総合サポーターを募集し、支援体制の強化を図っている。また、地域と連携し、婚活イベントにも取り組んでいる。

【委員】

- ・各種取組が着実にステップアップし、市民として富良野市は変わったと感じる。
- ・しごと情報の WEB サイトの状況の詳細を聞かせてほしい。

【商工観光課長】

- ・しごと情報の WEB サイトは、平成 27 年度からスタートし、6社のインタビュー記事を掲載。平成 28 年度は新たに 10 社掲載予定。課題としては、若者にどれだけ情報をキャッチしてもらえるか周知方法を検討していきたい。
- ・また、上川総合振興局やハローワークと連携し、高校生に対し企業説明会を実施。地元に残る仕掛けづくりをしていきたい。

【委員】

- ・フラノマルシェができてから、中心街に人が集まってきたと感じている。
- ・まちなかに住んでいる人の減少の割合はどの位あるのか。
- ・富良野市外に居住し富良野市に勤務している人はどの位いるのか。
- ・働く場所（仕事）と住む場所（居住）をイコールにできる取り組みが必要ではないか。

【企画振興課長】

- ・まちなかに住んでいる人の減少の割合は、昭和 60 年から平成 22 年までの地区別増

減率において、中心市街地では30%以上人口が減少し、宅地開発等が行われた郊外部では、逆に30%以上人口が増加している。

- 富良野市外に居住し富良野市に勤務している人は、平成22年国勢調査によると1,669人おり、内訳は上富良野町から517人、中富良野町から511人、旭川市から219人となっている。

【会長】

- 市と金融機関との地方創生に関する包括的地域連携協定の取組の一環として、北海道銀行が中心となって、ホテルオークラ札幌において8月に富良野フェアを開催している。この1つの取組によって、次の展開が生まれてくるのではないか。
- 富良野市は、農業・観光・環境を前提にまちづくりを進めており、海外投資などによる無茶苦茶な開発はさせない状況づくりを図りたい。
- 本日の有識者会議での実施事業の検証により、今後、成熟した事業に展開できるよう努力していきたい。

5. その他

- 平成28年8月29日、まちづくり講演会として、島根県中山間地域研究センターの藤山氏より「田園回帰の時代～これからの富良野の取り組みについて」をテーマに講演をいただく。

6. 閉会（午後3時45分）